

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第12回目となる今回は、市内の春光台地区、鷹の巣福祉村地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。52の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成19年7月26日(木) 午後6時30分～8時
場所	旭川市春光台地区センター 大ホール(旭川市春光台3条5丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(52人)

対話の内容

※参加者はアルファベット(A～H)で表しています。
同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

市長あいさつ

皆さん、こんばんは。

今日は暑いので上着を脱がさせていただき、進めさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

皆さんには日ごろから大変お世話になっております。旭川市長の西川でございます。

本日は春光台地区、鷹の巣福祉村地区の皆さんにお声をかけさせていただいき、このような機会を設けさせていただきました。また他の地区の方も来ていただいているかもしれませんが一向に構いません。1時間半程度という本当に限られた時間ではありますが、是非、皆さま方のいろんなご意見やご提言をお聴かせいただきたいと思います。

こちらの2地区は今、5,400世帯、12,000人余りの方がお住まいになっております。この地域は当初、旧陸軍第7師団の演習場として活用されていたとお聞きいたしておりますが、その後、住宅街としてどんどん開発が進められ、今は本当に多くの方が住まれている地域になっております。春光台公園があり、ミズバショウの群生地があったりと、本当に自然豊かな地域として形成されてきておりますし、また福祉村や工業高等専門学校、実業高等学校などの福祉、教育機関がある地域です。また高台になっておりますので、市内では比較的雪の多い地域であるというのも、この地区の特徴ではないかなと思います。春光台公園のミズバショウの群生地の所に、文学のゆかりの地ということで先日、若山牧水さんの歌碑をご寄附していただいたばかりでございます。また徳富蘆花さん

の碑もあつたり、そういった文学的な匂いもある地域でございます。地域の皆さんにはフラワーロードという形で花を植えていただいたりですとか、またボランティアの皆さんには、今年の少雨の中、その花に水を与えていただいたり、地域の美化では本当にお世話になっております。私も車で走っていて本当に気持ちがいい地域だと思っております。

これまでに10回対話集会を行わせていただきました。地域の皆さま方、福祉団体の皆さま方、NPO団体の皆さん方とこれまで対話させていただいた中で既に市政の中で実現、反映をさせていただいたものですか、また中期的な展望の中で計画の中に組み入れさせていただいたりですとか、また今後の検討材料にさせていただいたりするものですか、また行政からの説明不足で皆さんに誤解を受けていた部分について、この場において、いろいろご説明をさせていただいたりですとか、そういう意味では是非、行政、市役所を身近に感じていただくことができる、素晴らしい機会にさせていただければというようなことで今日まで進めさせていただいております。私の任期4年間で、できるだけ多くの回数を重ねて皆さんとの対話から市政を動かしていきたいという思いで、これからも頑張っていきます。



今、旭川市にもいろいろな問題がございます。地域の経済、景気、また若い人の雇用ですとか給与水準が低くて大変だというような声も本当にいろいろな方からお聞きしている中、この景気の回復ということが、私たちの最重要課題の一つでもあります。

また良い面では、昨年は旭山動物園に300万人以上の方がお越しいただき、今年も今のところ昨年以上の入園者に全国からお越しいただいております。昨日も夜の9時から全国放送で「シロクマ園長・命の事件簿」という旭山動物園のテレビ番組を放映していただいております。またこれからいろいろとテレビ、雑誌ですとか、また来年には全国ロードショーの映画も予定されており、これからロケに入ってくる予定であります。数年前には旭川というまちを本州の方に説明する時に、まず場所がわからない、名前も聞いたことがない、富良野は有名だったのですけれども、富良野の北、車で1時間くらいのところのまちですというような説明をした時代から、今は動物園のまちだと、私も東京とか本州、向こうに行って、旭山動物園がある市の市長をやっていますという、まず今は知らない人はいません。非常に知名度が高まってきているこの機会を、例えば企業誘致など、いろいろな人脈、人のつながりを増やして、将来のこの旭川の元気につなげていくいいチャンスだということで、大事にこの活性化のために取り組んでいきたいと思っております。

8月からごみの有料化がスタートいたします。市民の皆さんには本当にいろいろな部分でお手数をおかけしますが、これを契機に是非ごみの減量化など、またごみ行政の推進のため、地域の環境のために皆さま方からいただいた手数料をしっかりと使わせていただき、またリサイクル率を向上させて、子どもたちの世代にきれいな旭川市の環境を残していきたいです。こういった部分でごみ有料化に対しても皆さま方のご理解をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また今市役所の中にいろいろな部署があります。これを今、庁内またいろいろな業界団体からもご意見をいただきながら、今、機構改革に向け作業をしている最中ですが、この目的は市民の皆さんにとってわかりやすい、使いやすい組織、市役所に近づけていくというのが一番の目的であります。皆さま方からも日ごろ市役所をご利用いただいている中で何かご意見、ご提案いただければまた是非参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

今、春光台地区では市営住宅の新築工事を進めていたり、春光台公園にパークゴルフ場の整備を行っております。また高台小学校の建て替えに向けて準備をしているのですが、これは北海道でも初めての取組で、高台小学校の建築に当たり民間の皆さんの資金を活用させていただき建築方法を調査している段階であります。学校に民間の方の資金を活用させていただき建設するという取組はこれまでに例のない、今後のモデル的な事

業になると思いますので、こちら是非皆さま方とも意見交換をさせていただきながら、春光台地域の子どもさんたちが、この小学校に安心して元気に通っていただくことができるような学校づくりを進めていきたいと思っております。

また、これからお年寄りの皆さんがこの旭川というまちでどうやって生き甲斐を持ち、元気で過ごしていただくことができるかとか、少子化と言われている中、お父さんお母さんへのご支援をどのようにさせていただくことができるだろうか、保育所に入りたいけれども入れないという方もまだ市内にたくさんいらしたりとか、また今共稼ぎの世帯が非常に多くなっており、小学校に入ってから、放課後の留守家庭児童会、学童保育ということで待機されている子どもたちもたくさんおります。全て進めていきたいという思いの中で、市の厳しい財政下ですぐにはできない部分もあったりと非常にジレンマに陥っていることもありますが、着実に一つ一つ前進していきたいと思っております。

冒頭簡単ではありますが、私からのごあいさつとさせていただきます。今日は本当にみなさんお忙しい中、このような会にお集まりいただきましてありがとうございます。8時位までの時間ではありますが、いろいろなお意見を頂戴できればと思いますので、何とぞよろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございます。

参加者A

私は高台小学校建設に関わる春光台中央町内会の窓口を担当することになっております。これから高台小学校建設に関わる中央町内会の要望について述べていきます。

現在、高台小学校の建設移転に係わる基本計画が検討されています。

国の重要問題として、教育改革の議論が活発に行われています。その中で学校、地域、家庭の関係が問題視されており、学校の問題は国民の重大な関心事です。

高台小学校の建設予定地は、中央町内会の中心部にある公営住宅を移転させ、その跡地に小学校を建設する計画とお聞きしています。

中央町内会としましては、一致団結し学校建設歓迎ムードにしたいと思っております。

そのためには、市民委員会とも協調し、フラワーロードで有名になっている、花と緑のまち春光台にマッチした、夢のあるすばらしい小学校にしてほしいと思っております。

高台小学校建設用地について、高台小学校建設予定地に隣接している「さくら公園」と「高台集会所」があります。さくら公園は中央町内会のほぼ中央に位置し、町内会の憩いの場として、運動会、盆踊り、花見など有効に利用してきました。現在のさくら公園は公営住宅の移転で住民が半減しました。さらに少子高齢化と公園施設の老朽化などで、ほとんど公園が利用されなくなってきました。利用されなくなった公園は、防犯上、女性や子供にとって危険な場所となっています。一方、高台集会所は、町内会唯一の集会所として有効に利用されてきました。しかし、公民館や地区センターの建設で、集会所の利用が激減しました。さらに集会所は築40年で老朽化が著しく、トイレも水洗化されておらず、集会所としての機能を失いつつあります。時代の流れと共に役目を終えた両施設を存続させることは、将来にわたり税金の無駄遣いであり、高台小学校の敷地として有効に利用してほしいと思っております。

次に高台小学校建設用地周囲の道路整備についてです。

高台小学校建設予定地周囲の約700メートル道路を拡幅し、歩・車道を区分して安全な道路にしてほしい。

歩道はバリアフリーで子供、高齢者、障害者など車椅子でも安全に通行できる構造にしてほしい。

歩道の側面には街路樹、防犯灯、フラワーロードなど景観のよい歩道にしてほしい。

歩道に通じる適当な場所に、さくら公園の代替として休息所を設け、ベンチ、トイレ、水飲み場などを設置し、学校と地域住民のオープンスペースを設けてほしい

春光台は旭川で一番の豪雪地区です。冬期間道路の除排雪など安全な道路環境にしてほしい。

このような道路が完成した時の道路整備の予想される効果ですが、歩道はバリアフリーで、信号機がなく学校一周700メートルの歩道は、子供たちや地域住民にとって絶好の

散歩コース、ジョギングコースになると思います。人々の交流の場となり、必然的に学校と地域住民の関係が深まると思います。このことは学校周辺の安全に寄与することになります。交通事故、いじめ、誘拐、放火などあらゆる事故、犯罪の抑止効果が働くのではないかと思います。

次に学校周辺の緑化についてです。

学校周辺に植樹を多くしてほしい。植樹は入学記念、卒業記念、地域住民の記念樹など広く住民の寄贈や協力を得て、森の中に学校があるような風景にしてほしいと思います。

学校の森は「おんこ」の樹がよいと思います。学名いちいの木は、頑丈で風雪に耐える、年中緑、剪定しやすいなど、北海道で一番位の高い木として道民に愛されております。

次に小学校の建設移転を契機に、学校名を公募して改名してはどうでしょうか。

インターネット検索で高台小学校を検索すると、何百の学校が検索されます。情報化社会の現在、ネーミングが重要であります。先ほど述べたように、学校の森が実現すると仮定して「旭川市立いちいの森小学校」というのはどうでしょうか。全国的にもユニークな学校名は、子供達や地域住民にとって、学校に対する誇り、愛着が深まると思います。

学校専用駐車場の問題、学校開放の問題、それから学校グラウンドなどからの砂ぼこりの問題などについて説明したいのですが、時間の関係上、割愛させていただきます。

結びになりますけれども、高台小学校建設移転予定地は、中央町内会の区域内であり町内会としては最大の関心事です。この提案内容は、中央町内会役員会、その他多数の住民から発言された提案事項を、箇条書きとした内容でまだ集約されてはおりません。

今後、中央町内会で臨時総会を開催するなど意見を集約し、さらに隣接する町内会とも協議し市民委員会を通して旭川市に上申したいと考えています。

今後、情報の共有と記録を残すために質問や提案、または市の回答は可能な限り文書で行われるよう望みます。

市長には嫌いな言葉かもしれませんが、教育問題に関しては、「米百表の精神」で取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

市長

高台小学校の今後について、地域で本当に真剣に考えていただいてありがとうございます。これからランドデザインについて地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。教育委員会にも要望書を渡しておきますので、今後ともご指導、お力添えをお願いしたいと思います。

また、「米百表の精神」、私も大好きな言葉でございます。

企画財政部次長

高台小学校については、新らしく民間の活力、技術、ノウハウを使いながら整備事業を行うのですが、これまでも学校教育部でそれぞれ関係する市民委員会の会長さん等に多少の説明をさせていただいていると聞いております。こういった中で、さくら公園の横の部分を建設候補地としながら現在検討を進め、今後の作業については今年度皆さま方からのご提案等も含めてどういった形のものかということ、旭川市が仕様書的なものを委託先と一緒に作り、それを公示して、そこに事業者方が手を挙げてくることとなります。どのような周辺環境が良いのか、学校の校舎などは国庫補助の関係で面積などに一定の制限がありますが、どのような教室にしたら子どもたちが最も元気に学校生活を過ごしていくことができるのかなどをいろいろな観点で検討し、合わせてさくら公園をうまく利用できるような手法も検討していきたいと思っております。今後、町内会の方々を含めいろいろな意見をいただき、それをできるだけ速やかに反映できるように本日のお話しも教育委員会にも伝えますし、私どもも一緒になって勉強していきますので、よろしく願いいたします。

参加者B

バスの運賃の問題です。まちなかからバスに乗り春光台に来るとバス賃がどんどん上がります。バス賃が高いという問題への対応については春光台地区が一番遅れていると思います。バス賃が高いと誰もこの地区には来なくなります。是非バス会社に要望していただきたいと思います。バス会社に頼めばすぐにできることだと思います。

次に入浴施設の問題です。春光台には入浴施設がありません。皆、比布町、当麻町、東神楽町、鷹栖町に行っております。土地はたくさんありますので是非入浴施設をつくってほしいと思います。

市長

バスと銭湯、入浴施設の件の2点ですね。私も調べさせていただいてバス会社にも要望を出させていただくようにしたいと思います。

生活交流部長

バス会社に頼めはすぐに運賃が安くなるはずだというお話ですが、バス会社も採算のことがございまして、確かに採算の合わないようなところは撤退するような状況のところもあるようです。旭川市全体で今までバスが通っていたところが減ったりしておりますので、生活を守るためのバスということで、今お話しがありましたことも含めて、バス会社とお話しさせていただきたいと思っております。

参加者C

医療制度の改正によって療養型医療施設がなくなるそうですが、入院している患者が安心して療養を受けられないということがこれから起きてきます。国の言い分は、その人たちについては介護施設で介護してもらえばいいと言うのですが、介護施設がそれに対応できるだけ十分に旭川市にあるかどうか、そしてそこにすんなりと入所できるのかどうかということが問題だと思います。この点についてお聞きしたいと思います。

また、8月から燃えるごみと燃えないごみの有料化が始まります。これはごみの減量化が目的なのでしょうが、他市町村ではこれをもっと充実させています。生ごみは燃えるごみという分類になっていますが、私はこれを堆肥化して市民に還元するのいいと思いますし、燃やせるごみにしてもそのまま燃やすのではなく、燃料として市民に還元するなどの方が考えられるのではないかと思います。是非それについての考え方を聞かせてください。

私はごみという言葉は大嫌いです。ごみではなく資源なのです。資源を有効に再利用するという立場でもう少し考えていただきたいと思います。

農業問題ですが、今年は雨が非常に少なく畑作物は大変です。生産者の努力によって北海道米それから上川米についても評価されるようになり、生産者も希望を持って仕事をやっていけるようになったと思います。市内のデパートでは農家の人が元気がなかったら、2、3割も売り上げが減少するらしいです。農家の人たちが元気になって購買力が出てくることによって商店街も活性化すると言われたことがあります。

旭川市として農業、生産者に対してこれからどういうことをして、それが農業の発展にどうつながっていくのか、これについてお聞かせいただきたいと思います。

市長

医療制度の改正によって介護療養型医療施設は将来廃止の流れにあり、旭川市内にもこの病床、ベッドが何百とあります。事業主の方も非常に困っているということでありまして、療養型病床から出された時に行き先がなくなってしまうような医療福祉行政を行っていくわけにはいかないと思っておりますので、特別養護ですとか老人保健施設、一般病床等を選択させていただいて、行き先がないという方が出ないように今後しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

ごみの問題でございませけれども、生ごみについては、市内のお店で生ごみを堆肥化

する機械が売っておりますし、また市でも個数に限りはありますが、その購入に対して今年より昨年よりも数を増やして助成をさせていただくことをさせていただいているのですが、こういったものを市民の皆さまに活用、利用していただけることで、ごみの減量化に今後とも取り組んでいきたいと思っております。

また今年から廃食用油の拠点回収をスタートさせていただくことになりました。この家庭で出た油を末広に新しくできましたバイオディーゼル燃料という燃料工場に運ぶ予定であり、市のごみ収集車でこの油からつくった燃料を使ってまた今年運行させていただく予定でいるのですが、この燃料はまだ冬期間の粘り気などの技術的な課題が残っており、これを改良できればこの廃食油から燃料をつくるという技術をもっともっと応援させていただいて、他の公用車にも拡大させていきたいということと、いろいろな技術提携もさせていただき、ごみを有効に活用させていく取組を行っていききたいと思います。

農業についてであります。地域の基幹産業であるという認識は、過去から今日、また将来にわたっても変わりはないと思っております。お米の一俵の値代がかつて1万8千円位であったものが1万2千円位まで下がり、今1万4千円位まで回復することができたのですが、農家の皆さまの所得が以前に比べて減ってきているという現実があります。この米だけに限らず、地域のブランド化ということもいろいろな農業団体の方とも連携して取り組んでいきたいということと、また国の政策で認定農業者に対してのみ補助を与えるという新しい政策が始まったのですが、旭川市は兼業農家や小規模農家の方が非常に多く中で3分の1の方しかまだその制度の担い手認定農業者になっていないという現象があります。この3分の1の方が約70%の耕作面積を持っているのですが、農地の集約化、集団営農の促進ということも農家の皆さんとも連携してこれからも進めていきたいと思っておりますし、小規模農家の方にも農業を続けていただけるような助成をさせていただいているのですが、これについても今後とも現場のニーズをしっかりと把握していき、さらに進めて何とか農業を守り育てていきたいと思っております。今、日本の食料自給率が30%、40%台と言われていますが、先進国の中で食料自給率がこんなに低い国というのは日本だけです。その次に低い国がイタリアですが、イタリアでも70%台、イギリス、フランス、アメリカですとかはともに100%前後の自給率です。今私たちは中国からたくさん食料を輸入しております。アメリカからもオーストラリアからも輸入していますが、近い将来、多分中国は海外に食料を輸出するだけの余力がなくなってくるであろうと、日本もそう考えております。そんな中で地域の農業がなくなっていたら、日本人は食べることができなくなってしまうということを、本当に国全体で守っていかなければならないと思っております。市独自の政策は本当に限界があるかもしれませんが、国、道に対しても今後ともしっかりと要望していきたいと思っております。

環境部次長

ごみの関係のご質問がございましたので、私の方からもお答えしたいと思います。

今、有料化前ですごい量のごみの排出があり、多分今日も夜の11時近くまで収集をしている状況だと思います。ですが私は有料化が皆さんに知れ渡ってきたということで、すごく安心しております。働いている職員は大変ですが、大量の排出があるということは、8月から有料化になるということを皆さんが意識していることだと思っております。

確かに旭川市のリサイクル率はまだ20%に届かない状況ですが、先進都市の富良野市は60%を超え、ほとんど資源化しているということです。胸を張って言えることではありませんが、旭川市は分別が始まったのが平成8年、近文清掃工場ができ、それまでは全部埋め立てていたのが5分別が始まり、今は10分別。さらに今年の8月以降は食用油と布類と剪定枝とこの3種類についても分別することになりますが、この10年と少しの間、先進都市の背中を見ながら走ってきました。分別数が増え、皆さんには戸惑いがあるでしょうが、ご協力いただいてありがたいと思っておりますし、ご提案いただいた燃やせるごみを燃料化したらどうかなども含めて、リサイクル率を上げていきたいと思っております。この場で具体的に答えることはできませんが、そういう決意を持って今後とも努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

参加者D

昨年、ハザードマップが各戸に配布されました。関係者の皆さんが一生懸命に努力された結果で非常に価値があるものだと思っております。しかし、避難場所が春光台では千代の山公園や高台小学校のグラウンドなどと指定されておりますが、真冬に千代の山公園に避難して、雪が2メートルも積もっていたのではどうしようもないではないかと思えます。旭川は1年の半分は冬なので、冬はどこに避難したらよいのでしょうか。最悪の事態に備えて、それに対応する策を考える必要があるのではないのでしょうか。真冬に大地震が起きて、電気水道ガスが全部壊された時のための対応策は現在検討されているのでしょうか。旭川は大きな災害がない所で幸いではありますが、災害はいつ起こるかわかりませんので心配です。

市長

今、新潟の中越沖地震で避難されている方々の光景をテレビなどで見ると、本当に私たちのまちで災害が起きた時のことを現実として考える毎日でございます。確かに旭川の冬は非常に寒く雪もありますので、外に長時間いることは当然無理です。それは一時的な避難場所となります。今、旭川市の消防を中心としまして、例えば地震などあらゆる災害、またこういうことはないかと思えますけれども、外国から攻めて来られた時ですか、そういったことに対して国民保護計画に基づいて総合的な国民保護のための計画を策定させていただきました。この時には消防、警察そして自衛隊、そして市民の皆さんそして市役所が全部有機的に結びついて、皆さんに一日でも早く安全を確保していただくことができるような計画を策定しております。ただこれは計画の段階で、まだ一度も使ったことがないものですから、想定しえない大地震が発生した際にどうやってうまく稼働させていくことができるかについては、日ごろの訓練、イメージトレーニング、それと住民への啓蒙活動かなと思えます。北海道、旭川は特に災害が少ないということで、各家庭に非常食やリュックサックの中に一式置いておく世帯がまだ非常に少ないのかなと思えます。関東東海地区はいつ大地震が起きてもおかしくない所ですから、乾パンなどの食料やろうそく、ライターなどをかばんの中に入れて各家庭においているんですね。このようにそれぞれ住民の皆さんが自己防衛、万が一のための自分自身を守るということで、是非準備をしていただきたいと思えます。また今後ともご意見などがあれば是非参考にさせていただいて計画の強化につなげていきたいと思えます。

参加者E

自転車を使って今の車社会から少しでも脱皮していく交通システムに変えていく施策を行ってほしいと思えます。例えば旭川中央警察署の調べでは、毎年、車と自転車の接触事故が370件程度、1日に1件あるという計算になりますが、これは人に優しい道路になっていないということだと思います。歩行者、車、自転車がきちっと分けられている市道をつくってほしいと思えます。以前、2条通りと5条通りには自転車専用道路があったと聞きます。全国的にみても先進的な例であったそうです。

また、道路上にある支障物件、例えば電柱等を埋設して景観、見通しを良くしてほしいと思えます。これはお金がかかることなので簡単にはいかないと思えますが、検討していただきたい。

交通システムとまちの活性化を検討する組織をつくっていただきたい。まちの活性化について市民にアンケート調査を実施して、市民の知恵を集約して内部検討していただきたいと考えております。元気のある旭川、すてきな旭川、自然に恵まれた旭川になるような市政を行ってほしいと思えます。

市長

以前、自転車専用道路が2条通りにあったということで、これをまた復活させてはどうだろうかというお話しが議会でもありました。2条通りに流雪溝をつくったことにより自転車が

走行するスペースがなくなってしまったそうです。

高齢社会の中で事故は非常に心配な部分ですので、お金の問題、道路の幅の問題もあり簡単にはいかないですが、今後、自転車専用道路をどこまで整備できるのか、いろいろと知恵を絞っていきたいという思いはあります。私が以前パイロットをしていた時に、オランダのアムステルダムによく行っていました。アムステルダムの街中は運河がたくさんあるのですが、それと同じくらい自転車専用道路が非常に発達しており、船で移動する人、自転車で移動する人、徒歩で移動する人と車で移動する人とまた路面電車もありますので、非常に多様な移動手段があつてうらやましいなと思っておりました。そういう面ではまだまだ日本、旭川は交通、道路整備は遅れているなと思っております。

電柱の地中化については、今、4条通りがだいぶ進んでおりまして、4条の16丁目、17丁目あたりで地中化の工事を行っている最中です。今度4条通りをじっくり見てみてください。電柱がほとんどなくなっております。これも莫大なお金がかかりますので、順次これから行っていくということですが、将来、北彩都の整備計画に合わせて駅前、宮下通りの電柱の地中化を進めていく予定です。これも順次、ひとつひとつ取り組んでいきたいと思っております。

また今ちょうど機構改革について進めている最中なのですが、この中で交通システム全般、バスの話はもちろんですが、そういったことを専門的に考える係などが必要ではないかという議論をしている最中ではございまして、何とかこれも将来にわたって議論できるような取組もしていきたいと思っております。

参加者F

近文市民ふれあいセンターですが、ここはオープンから10年位経っているということです。温水プールの利用料金は70歳以上が100円、6回綴りの回数券が520円です。小中学生が100円、高校生が260円、これら以外が520円で、小学校入学前は無料となっております。月水金曜日のお風呂やカラオケのある日は常に高齢者でいっぱいになっておりますが、平日は若い人は来ておりません。土日曜日、祝祭日に行きますと若いお父さんお母さん方が子どもを連れてきています。子どもは無料ですが親は500円位払っています。70歳以上の者がプールを利用する時、回数券だと1回あたり87円程度です。これで3時間も4時間もいられます。また囲碁、カラオケ、お風呂が無料です。私を含めた70歳以上の利用者たちは、料金をもう少し出してもいいと言っております。そしてもっと若い人たちの料金を下げてほしいと思っております。そうすれば若い人たちが来るのではないのでしょうか。市はお金が余っているのでしょうか。財政破綻してからお金をとられても困ります。何でも無料にすればいいというものではないと思っております。

市長

近文市民ふれあいセンターは、建設は市で行いまして、指定管理者で管理しております。今、総合体育館等のいろいろな施設で料金をとっているのですが、ほとんどの人が料金を安くしてほしいというご要望なのに、逆にもっと料金をとってもいいというお話を聞けたというのは旭川市のことを本当に真剣に考えてくれているのだなと心強く思っております。是非その点については考えさせていただきたいと思っておりますが、値上げということのみ考えるのではなく、財政との均衡を考えながら検討していきたいと思っております。

生活交流部長

近文市民ふれあいセンターはもともと保健福祉部で担当しており、指定管理者ということで管理をしています。もともとは高齢者の社会参加と生きがいづくり、高齢者にプールや囲碁、将棋などの娯楽をして、ゆっくりと過ごしていただきたいという目的を持ってつくられた施設であり、高齢者以外の方は特別に使わせてもらっているという形態になっておりますので、このような料金体系になっております。

市でもこれまで社会教育施設は無料という時がありましたが、やはり一定の負担、必要なものについては皆さんにお願いしなければならない場合もあります。今回のごみの有

料化についてもそうです。今後、皆さんのご意見、お知恵をいただく中で、より良い方策もあるかもしれませんが、現状は、高齢者の生きがいがづくりという目的があって、このような料金体系になっているということをご理解いただければと思います。

参加者F

それでは、今後もこのような状態で続くということですか。

生活交流部長

この施設自体が高齢者の生きがいがづくりという目的がありますが、ここを使っている方たちが、高齢者だけではなく若い人たちも一緒の方がいいのではないかと、そのためには若い人たちの料金を下げる必要がある、その代わりに私たちの料金は少し値上げしてもいい、その方がかえって使いやすくなるということであればその方がいいわけですし、逆に、いや今のままでいいという方もいらっしゃると思います。決してこのまま話を聞かないということではなく、こういういろいろな意見が出てきた中で、これらの意見を関係部局に伝えて検討していきますのでご理解いただきたいと思います。

企画財政部次長

今は近文市民ふれあいセンターの件でしたが、市内にあるいろいろな施設の料金、使用料、手数料を例えば建設や維持にかかる経費などを整理して、利用者にも一定のご負担をいただくという考えの元に現在の使用料、手数料ができています。当初無料であったものについても一定の見直しを行ってきました。今後も何年かに一度はその状況を見ながら、逆に下げたほうがいいのか場合もありますし、物価の高騰などで値上げをしなければならぬ場合もあるかもしれませんが、いろいろな状況の中で市民の方からの意見をいただいて整理をするということになりますので、今、無料だから未来永劫無料だとか、今、千円だからずっと千円だとかそういうことではありませんので、状況を調査しながら対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

参加者F

10年前から昨年まで無料で、指定管理者になって初めて料金をとるようになったのですよ。10年間無料だったということについては、はっきり言ってルーズではないかと思えます。その結果は全て市民に来ますよ。

市長

福祉政策の一環としての施設だと聞いていたのですが、時代も変わり、今は市の財政も余裕がなくなってきたということで、福祉施設も有料にしたり、値上げしたりさせていただいております。これからも値上げしていくところもあるかもしれませんが、なるべく安い料金で利用していただけるように努力をしていきたいです。動物園の入園料は今580円ですが、これも安すぎるのではないかとご意見もいただいております。これも含めて全体的に考えていかなければならないと思っております。

参加者G

つどい町内会の者ですが、先ほど春光台中央町内会の方から高台小学校の移転について歓迎するという話がありましたが、私はつどい町内会のすぐ側に学校があったのになくなるということで、非常に残念に思っております。この学校の跡地利用についてお聞きしたいと思います。

また、春光台地域は公園に白樺がたくさん植えられていますが、私は白樺は公害の木だと思っております。市にも要望しましたが、公害の木を公園に植えないで、今植えてあるものを撤去して桜などを植えてほしいと思っております。市の考え方をお聞かせください。

市長

高台小学校の跡地利用についてはまだ詳細は固まっていないと思います。これは今後、地域のみなさんと話し合っていかなければいけないことだと思います。

まずは新しい場所で完成してから移動するようになり、取り壊すのはもっと先なので、まだ何年間かありますが、跡地に公園をつくるのがいいのか、それとも宅地として分譲するのがいいのか、いろいろとご意見があるかと思いますが、ご町内の皆さまとも相談させていただきたいと思います。

参加者G

テレビなどでご存知でしょうが、本州の方では杉、北海道では白樺です。アレルギー体質の方にとってはその花粉が非常に刺激が強いということです。それを市で把握していれば公園に植えるようなことはないと思います。

環境部次長

確かに環境の変化によって、いろいろな形でのアレルギーなどが随分と増えてきているのは事実です。有害な物質も増えてきているようですが、特に自然におきましては、ご意見にあったように、本州の杉の花粉にあたるのが北海道では白樺の花粉などで、粘膜などに異常を起こす方も非常に増えてきているということです。

今までは公園に木を植えるといえば、早く成長するものを植えていたということは聞いたことがあります。市民の方から苦情があれば替えていくことも必要かもしれません。今後、公園の担当とも相談しながら対応していきたいと思います。

参加者G

わかりました。市民委員会からも要望しておりますが、木の剪定の仕方について業者に対し市で指導していただきたいと思います。木というのは剪定の仕方によっては、さらに枝を増やしていくものもあります。私の町内に第1公園というのがあるのですが、その木は剪定後に枝が増えてすごい状況になっています。枝が多いと咲く花も多くなります。業者を選定した時に剪定の仕方を指導してほしいと思います。

市長

この件についてもまた検討させていただきたいと思います。

参加者H

私はボランティアで車いすの高齢者、障害者のお手伝いをしておりますが、旭山動物園のスロープが急で大変危険です。私たちボランティアも歳をとってくると急な勾配で車いすを押すことが難しくなってきますし、また乗っている方も不安だと思います。このスロープの勾配を緩やかにしたり、迂回路を設けるなどして、車いすの高齢者や障害者が安心して利用できる動物園にしてほしいと思います。

市長

ボランティアでお力添えをいただいてありがとうございます。

旭山動物園ですが、もともとは旭山というくらいですので山につくっている動物園で勾配が急であるというデメリットがあります。建設した昭和42年当時はまだバリアフリーという言葉もなかった時代だったのかもしれないのですが、将来のことを考えて平地につくっておけばそういった心配もなかったのですが、東門からあざらし館、ぺんぎん館くらいまでは迂回していける道路を整備させていただいたり、電気自動車を走らせて足の不自由な方や高齢者の方はその車で下まで降りていただけるようなことをさせていただいたりしております。しかし、その下から正門までの真ん中のスロープの所はまだ残念ながらスロープのままになっておりますので、そこをずうっと裏にまわって迂回するようなことができればいいのですが、そうすると動物を見られない所に行ってしまうという問題があります。私もそこは車いすでは危ないなと思っておりますので、どういう方法が一番いいのか今後と

も研究をしていきたいと思っております。

市長終わりのあいさつ

今日は本当に遅い時間までお付き合いをいただきましてありがとうございます。

いろいろな皆さんの旭川のまちづくりに対しての思いですとか、また将来に対しての期待と行政への注文などをいただくことができました。是非参考にさせていただいて、今後のまちづくりを進めていきたいと思っております。また、いただいたご意見やご要望についてはこれから庁内で担当部とも協議を行っていき、その中ですぐ実現できるもの、中期的な課題として来るべき時期に行うべきものなど、そういった選別作業を進めていきたいと思っております。

またいろいろな場面でお会いしたり、お世話になることもあると思いますが、気軽に市政、まちづくりに対しての思いがございましたら、市の方にご連絡いただいたり、またお越しいただければ、しっかりとお聞かせいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。今日は本当にお疲れのところありがとうございました。